

―伐採される木々を救いたい！国立第二小学校から武蔵大学へ― 桜ともみじが植樹されました

武蔵大学（東京都練馬区／学長 高橋德行）は、このたび東京都国立市の国立第二小学校から桜ともみじの樹木を譲り受けました。この桜は、同校の校舎建て替え工事の際に伐採予定だったところ、市民10名が樹木の保護を目的とした「～つづく つながる～くにたちみらいの杜プロジェクト」を立ち上げ、受け入れ先を募っていたものです。譲渡された樹木は4本で、去る4月13日に武蔵大学の敷地内に矢野智徳氏（造園家/環境再生医）によって植樹されました。

移植作業の様子



慎重に作業をすすめる矢野智徳さん



移植作業の様子



根津化学研究所前に植樹されたソメイヨシノ

樹木が生きやすい環境はすべての生き物にとって生きやすい環境

（～つづく つながる～くにたちみらいの杜プロジェクト 事務長 前田せつ子 氏）

武蔵大学さんから植樹場所ご提供のご連絡をいただいたときは、本当に嬉しく、プロジェクトのメンバー全員で喜びました。詳しいお話をしに大学を訪ねると、自然豊かな校内にたくさんの大木、古木があり、小川が流れ、たくさんの生きものたちがいて、素晴らしい環境に改めて感激しました。プロジェクトを応援してくださっている方の中に武蔵大学の卒業生がいらして「母校からそんな申し出があったなんて、誇らしく、嬉しい」と仰ってくださいました。植樹に提供してくださった場所は、以前あった樹木が弱って伐採・伐根された場所でした。つまり、大地の「脈」（空気と水の通り道）が塞がれたところ。そのため、まずは植樹場所に「脈を通す」ことから始めました。大学に到着したのが14時半くらいでしたが、2箇所目を終えたのは24時過ぎ。長時間の作業になりましたが、立ち上がった4本の木々は、胸を張って喜んでるように見えました。桜たちの大きな根っこを通した「脈」は、自分たちのみならず周辺環境をも再生すると思います。樹木が生きやすい環境はすべての生き物にとって生きやすい環境です。大事に見守っていただくと嬉しいです。

桜、もみじの植樹を終えて（本学施設課長 今井啓一郎）

今回の植樹は、様々な事情から本来は移植に適さない時期での実施でしたが、土を柔らかくし、炭、腐葉土などを施してそれぞれに適した土壌をつくるなど、矢野氏によって念入りな準備が行われました。植樹当日の作業は昼過ぎから深夜にまでおよび、作業に携われたみなさんからは、樹木に対する情熱、真剣な思いを感じました。本学は緑豊かなキャンパスですが、樹木の中には倒木の恐れがある老木もあり、昨年イチヨウを伐採・除去したところ今回の桜やもみじが移植されることとなりました。来年の春には、桜が無事に芽吹き、花が咲くことを期待しています。



濯川（すすぎがわ）脇に植樹されたヤエザクラともみじ

―報道関係者問い合わせ先―

武蔵大学 広報部 担当：増田・西（ますだ・にし）

TEL：03-5984-3813 E-mail：pubg-r@sec.musashi.ac.jp

■ 武蔵大学 日本で初めてリベラルアーツ教育を行った旧制高等学校がルーツ

〔アクセス：西武池袋線「江古田駅」から徒歩6分〕

武蔵大学のルーツは、東武鉄道や東京地下鉄道（現東京メトロ）など多くの鉄道事業に携わり「鉄道王」と呼ばれた根津嘉一郎（初代、1860～1940）が、1922（大正 11）年に私財を投じて創立した日本初の私立七年制の旧制武蔵高等学校。戦後の学制改革により、1948（昭和 23）年4月に新制武蔵高等学校、翌年に新制武蔵大学、新制武蔵中学校が開設され、学校法人根津育英会武蔵学園として現在に至る。一年次から4年間のゼミナール（小規模で対話型の授業を含む）が必修で「ゼミの武蔵」といわれる。

2012年には、外国語や異文化を楽しみながら学ぶことのできる国際村 Musashi Communication Village（通称 MCV）を開設、キャンパス内留学の拠点とした。

2020年3月には、ロンドン大学と武蔵大学とのパラレル・ディグリー・プログラムにおいて初のロンドン大学学位取得者を輩出、グローバル教育の更なる発展に力を注いでいる。

2022年4月、学園創立100周年を迎えたこの年に、新学部となる国際教養学部を開設し、経済、人文、社会、国際教養の4学部9学科となった。

学長 高橋 徳行 〒176-8534 東京都練馬区豊玉上 1-26-1

